

## 再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道4号 <small>やいた おおたわら</small> 矢板大田原バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局									
起終点	自： <small>やいた はりう</small> 栃木県矢板市針生 至： <small>なすしおぼら さんくちよう</small> 栃木県那須塩原市三区町	延長	7.9km											
<b>事業概要</b> 一般国道4号は、日本橋を起点とし、宇都宮、郡山、福島、仙台、盛岡を経て青森市に至る主要幹線道路である。 矢板大田原バイパスは、物流生産性の向上、安全・安心な生活空間を確保、救急医療活動の支援を目的に計画され、栃木県矢板市針生～栃木県那須塩原市三区町までの延長7.9km、4車線のバイパス事業である。														
H31年度事業化	S42年度都市計画決定 (H30年度変更)	R-年度用地着手	R-年度工事着手											
全体事業費	約400億円	事業進捗率 (令和3年3月末時点)	約1%	供用済延長	0.0km									
計画交通量	29,200～38,600台/日													
費用対効果 分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-bottom: 1px solid black;">B/C</td> <td style="width: 50%; border-bottom: 1px solid black;">総費用</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(事業全体) 2.0 (1.9)</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体) 549/572億円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(残事業) 2.1 (2.0)</td> <td style="text-align: center;">(事業費) : 475/498億円 (維持管理費) : 74/74億円</td> </tr> </table>	B/C	総費用	(事業全体) 2.0 (1.9)	(残事業)/(事業全体) 549/572億円	(残事業) 2.1 (2.0)	(事業費) : 475/498億円 (維持管理費) : 74/74億円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-bottom: 1px solid black;">総便益</td> <td style="width: 50%; border-bottom: 1px solid black;">基準年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体) 1,139/1,139億円</td> <td style="text-align: center;">令和3年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(走行時間短縮便益) : 1,021/1,021億円 (走行費用減少便益) : 75/75億円 (交通事故減少便益) : 44/44億円</td> <td></td> </tr> </table>	総便益	基準年	(残事業)/(事業全体) 1,139/1,139億円	令和3年	(走行時間短縮便益) : 1,021/1,021億円 (走行費用減少便益) : 75/75億円 (交通事故減少便益) : 44/44億円	
B/C	総費用													
(事業全体) 2.0 (1.9)	(残事業)/(事業全体) 549/572億円													
(残事業) 2.1 (2.0)	(事業費) : 475/498億円 (維持管理費) : 74/74億円													
総便益	基準年													
(残事業)/(事業全体) 1,139/1,139億円	令和3年													
(走行時間短縮便益) : 1,021/1,021億円 (走行費用減少便益) : 75/75億円 (交通事故減少便益) : 44/44億円														
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】交通量：B/C=1.8～2.2（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.8～2.2（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.8～2.1（事業期間±20%） 【残事業】交通量：B/C=1.9～2.3（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.9～2.3（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=2.0～2.1（事業期間±20%）														
<b>事業の効果等</b> ①物流生産性の向上 ・矢板大田原バイパスの並行区間では、土屋交差点など5箇所が主要渋滞箇所に特定され、矢板大田原バイパスの整備により、交通混雑緩和による物流生産性の向上が見込まれる。 ②安全・安心な生活空間を確保 ・事故類型は車両相互の追突が多く、全体の約8割を占めている。また、矢板大田原バイパスの並行区間は、児童の登下校に利用され、大型車も多く、幅員も狭いため安心・安全に課題がある。矢板大田原バイパスの整備により、大型車を含む交通が転換し、現道の安全性の向上が期待される。 ③救急医療活動の支援 ・塩谷地域消防本部の救急搬送時間は県内で最も長い。矢板大田原バイパスの整備により救急医療施設へ30分圏域が約3割拡大し、救急医療活動を支援する。 ④災害時におけるリダンダンシー ・台風19号（2019年）により東北道が通行止めとなった際は、東北道の代替路として機能を発揮した実績や、第一次緊急輸送道路への指定等、災害時の重要路線として更なる強靱化が図られる。 ⑤観光周遊の強化 ・矢板市や大田原市には、八方ヶ原や雲巖寺の主要観光地があり、年間1,500人以上の観光客が来訪しており、矢板大田原バイパスの整備により周遊観光が強化され、観光客の流入増加が期待される。 ⑥農畜産品の流通利便性向上 ・大田原市、那須塩原市、那須町の農業産出額は県内上位3位を占め、矢板大田原バイパスの整備により、関東方面や矢板家畜市場への流通利便性を支援する。 ⑦沿道環境の改善 ・矢板大田原バイパスの整備により、現国道4号の地域分断、騒音、排気ガスなどが低減し、沿道環境の改善効果が期待される。														

関係する地方公共団体等の意見

・栃木県知事の意見：

一般国道4号は、本県の発展を支える重要な広域幹線道路であり、重要物流道路にも指定されていることから、これまでも機能強化や渋滞対策、防災・減災、国土強靱化の推進を要望してきたところです。  
つきましては、矢板大田原バイパスの早期の工事着手に向け事業を継続していただけるようお願いいたします。  
なお、事業の推進にあたっては、引き続き徹底したコスト縮減に努めていただきますようお願いいたします。

事業評価監視委員会の意見

事業の継続を了承する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

地元情勢の変化等事業を巡る社会経済情勢等に変化が見られない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成31年度に事業化、用地進捗率0%、事業進捗率1%（令和3年3月末時点）。
- ・今後、引き続き早期の工事着手に向け事業促進を図る。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

早期完成を目指し、用地取得・工事を推進。

施設の構造や工法の変更等

技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら引き続き事業を推進していく。

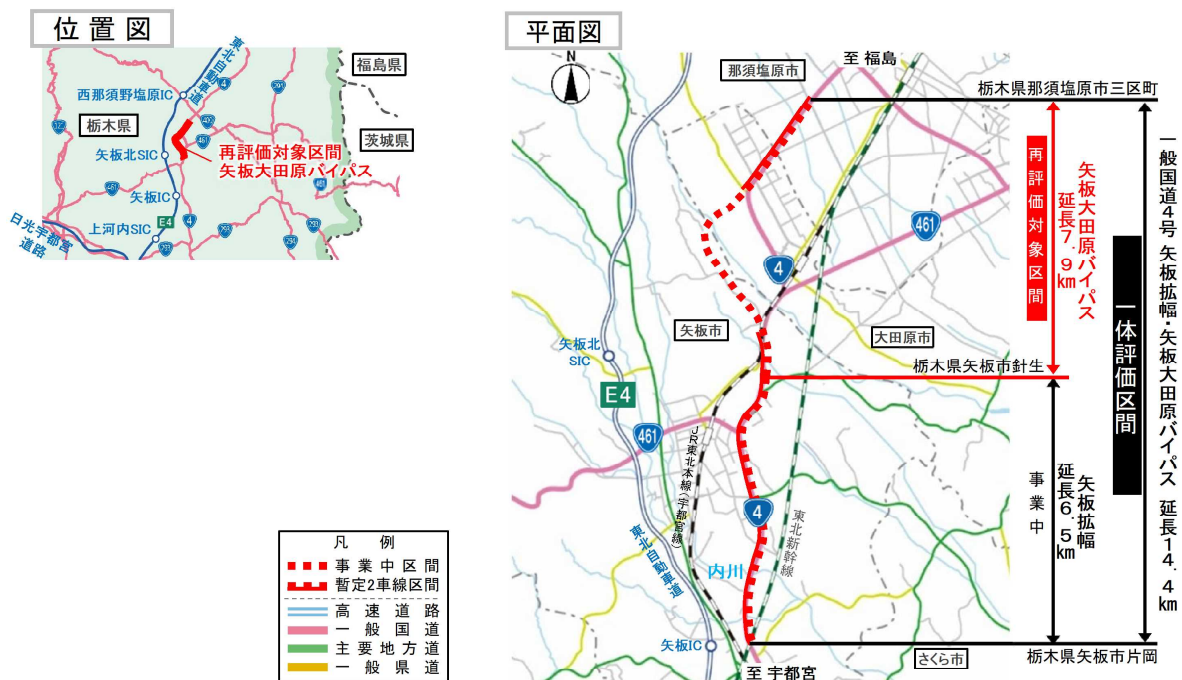
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、物流生産性の向上、安全・安心な生活空間を確保、救急医療活動の支援等の観点から、事業の必要性、重要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切である。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。